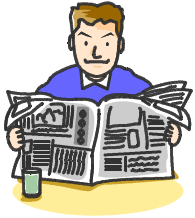




小田小だより

平成26年 6月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校



背中のこぎりの重み

～「母の日」と「父の日」に思いを寄せながら～



学校長 木村 昭雄

一人親家庭にも思いを寄せながら、上記のタイトルで学校だよりを書いておりますことをどうかご理解ください。

6月になると思い出す出来事があります。私が中学校の教員をしていたときの話です。

梅雨真っ直中の雨の日の昼休みのことでした。私が担任する3年3組の教室では、本を読んでいる生徒、友達同士で話をしている生徒、家でやり残した宿題をやっている生徒、それに鬼ごっこをしている生徒など、過ごし方はさまざまでした。私はといえば、確か教卓を囲んで、「親が『勉強しろ！勉強しろ！』としつこくって仕方がない！」などという何人かの生徒の苦情を聞いていたように思います。とその時突然、「ボカッ！」という変な音がしました。鬼ごっこをしていた生徒の一人が合板でできた壁にぽっかりと穴を開けてしまったのです。

放課後になり、担任の私と学年主任、生徒指導専任の3人で校長室に、事情説明と今後の対応についての確認に行きました。学校長は、常々、行為責任が本人にある場合は、まずは本人の力で解決できるものはするように話をしておりました。ただし、金銭が伴ったり、謝罪が伴ったりする場合はこの限りではなく、保護者の方にも応援願うことになっていました。そのときの対応も同様に、直接的・間接的の違いはあるものの、鬼ごっこをしていた生徒全員に何らかの責任はあったので、結果は全員に修復作業をしてもらうことになったのです。

当時は土曜日のこぎりも授業があったので、弁当を食べ終えてから関わった生徒たちと一緒に板材を買ってきて、鋸かなづちを持ったり、金鋸あなを持ったりして修復作業に取りかかりました。その中に、一際目立った生徒が一人おりました。生徒は穴の寸法を測り、手際よく鋸を引き、そして、周囲の友だちに適切な指示を出して作業を着々と進めていました。担任の私は、啞然とし、ただただ感心しているばかりでした。この一際目立った生徒の父親の職業は、実は大工さんでした。

誰にでも背中があります。昔から「子どもは親の背中を見て育つ」と言われておりますが、まさに、この生徒は親の背中を見て育ってきたのでしょう。同じDNAが流れてはいるものの、特別に教えられたものではなく、自然に身につけている考え方や技術だと思います。一生懸命に働いている親に育てられた子どもは、一生懸命働く人間になり、いつも叩かれて育った子どもはいつも叩いて育てる人間になると言われています。また、溢れんばかりの愛情を注ぎこまれた子どもは、愛を感じ、愛を与えることのできる人間になります。しかし、一方では、親の背中を見させて育てることは、消極的な教育だと言う人たちがいます。しかし、私は決してそうは思いませんし、どんな教育方法よりもこれに勝るものはないと思っているほどです。働く姿を直接見せることはできなくとも、真摯に生きる姿勢は示せますし、人生について思いを語ることはできるでしょう。

5月の「母の日」と6月の「父の日」に思いを寄せながら、保護者の皆様にはこれからも、是非とも自分の背中に自信をもち、いつでも見せることのできる親で有り続けてほしいと願ったしだいです。私たち教職員も、一層資質を磨き、いつでもどこでも背中を見せながら教育に当たってまいりたいと思います。梅雨の時期に入る今月もどうぞよろしく願い申し上げます。